

深志同窓会々報

題字 松中10回卒文学博士
中山久四郎筆
発行所 松本市蟻ヶ崎3-8-1
松本深志高等学校内
深志同窓会
発行人 花岡堅而
編集 会報委員会
印刷 電算印刷株式会社

21世紀へ「蜻蛉」翔ぶ

120周年事業、実行委もスタート

多彩な記念事業を計画

待望の同窓会館建設準備も

松本深志高校は、平成八年に創立百二十周年を迎えます。同窓会では昨年二月、企画委員会（委員長・穂苅甲子男会長代行）をつくり、記念事業への取り組みをスタートさせました。この三月には実行委員会のメンバーを決め、事業の具体化に向けての組織固めをしました。記念の節目まであと二年。記念事業、母校の今日などについて、穂苅会長と平成六年度生徒会長・多湖淳君に話し合ってもらいました。

司会は会報編集委員会の伊藤芳郎副編集長。司会 明治九年（一八七六）に開校した松本深志高校は、二年後の平成八年に創立百二十周年を迎えます。今年には記念事業に向けた取り組みが、いよいよ本格化しますね。

穂苅会長代行 まず百二十周年という歳月の重みに胸が熱くなる思いです。九十周年、百周年、百十周年とそれぞれの節目に実施してきた記念事業をふまえ、

意義深いものにしたいと考えています。

多湖 百二十周年という歴史の評価や重みは、在校生にとってもまだ理解が難しいですね。ただ伝統ある深志高校にいまこうして在学していることは、率直に誇りを感じていますし、一般社会に出ればまた別の感慨があると思います。

司会 記念事業への具体的な取り組みを聞かせてください。

穂苅 事業計画案を検討する企画委員会は平成五年二月に発足し、これまで四回の会合を開いてきました。

昨年九月の同窓会総会で、企画委員会を発展させた実行委員会をつくる決定をいただき、この三月に委員会のメンバーが決まったところです。

司会 多彩な事業を計画しているようですね。

穂苅 企画委員会で方向づけされた概要ですが、まず一つに同窓会館の建設を考えようという計画があります。同窓生のよりどころをつくるのと同時に、百十周年を機に収集に着手した中等教育資料約一万五千点を収蔵展示したいと考えています。ほかに『深志人物誌』

の続編刊行及び同窓会名簿刊行、地域に貢献する絵画展や音楽会、講演会、母校への支援などを検討しているという意見が出されました。

多湖 中等教育の関係では、多くの資料が集まっているようですね。

穂苅 開校以来の歴史的な資料、写真、美術品、ノートや参考書、卒業後各界で活躍している先輩の著書や作品などは、日本の中等教育の歴史をそのまま語り、後世に伝える貴重なものです。

司会 具体的な建設場所などについてはいかがでしょうか。

穂苅 中等教育資料の展示施設を兼ねた同窓会館は、図書館に隣接して建設するのが理想的かと思われすが、そうしますと第二棟の改築構想とも絡んできますので、時期や場所の具体化

は先になりそうです。とりあえずは建設基金の募金にかかりたいと思っております。

多湖 ところで、松中、深志を貫く自治の精神は、時代とともに形を変えながらも今日に受け継がれていると思います。とんぼ祭の「夕べの語り」は思索する伝統だと思えますし、新入生を歓迎する郷友会の活動などは縦のつながりを強めるものとして行われています。

穂苅 限られた人生のなかで、深志で過ごす三年間は人生の糧となるものです。自治の伝統と学び舎を誇りに、志を高く持ち、素晴らしい未来を切り開いてください。同窓会としても全同窓生各位のご協力を頂きながら、百二十周年記念事業の成功に向けて努力したいと、決意を新たにしております。

各年次会から実行委員

平成四年度の定時総会で「深志120周年記念事業準備委員会」の設置が承認されました。準備委員会は、記念事業の基本理念を「百二十年にわたる松中・深志の『自治』の精神に思いをいたし、さらに発展させる大きな節目とする」と考え、母校への援助、地域への貢献、母校の歴史記述、会員の親睦について意見を交換しました。母校への援助については、たとえば、近代的図書館を建築し、その内容を充実させたいという意見がありました。地域への貢献については、県民文化会館ほかで音楽会・美術展の開催をというのが大方の

意見でした。出版事業については、「深志人物誌II」「会員名簿」というのが一致した考えでした。これらの案を具体化していくために、準備委員会は、企画委員会を設置し、そこで検討を進めていくことになりました。企画委員会の構成は、穂苅会長代行を委員長、鈴木脩氏（松中63回）、相沢英伸氏（深志4回）を副委員長に、委員十一名です。

企画委員会は、平成五年二月の第一回から平成六年二月の第四回まで四回の会議を重ね、記念事業案の策定と具体化の方策の検討をしてきました。その間、平

成五年度の総会に、記念事業の骨子案を提出し、承認されました。

総会後、企画委員会は、実行委員会の組織に着手しました。実行委員会の構成は、

- 記念事業本部
- 募金委員会
- 記念式典委員会
- 母校後援委員会
- 中等教育資料目録作成・展示委員会
- 文化事業委員会
- 美術展担当
- 音楽会担当
- 講演会担当
- 出版事業委員会
- 「会員名簿」担当
- 「深志人物誌II」担当

○「記念事業報告書」委員会は、実行委員の選任については、まず各年次会に依頼して二名または一名の実行委員候補者を推薦していただき、それに基づいて企画委員会が会の組織を構成することになっていきます。

今回の記念事業の中心は、中等教育資料館の中に含む同窓会館建設のための基金の準備です。同窓会館を持ちたいというのは長年の願いでした。開校百二十周年を機に、かねてからの念願が実現できますよう同窓生各位のご協力をお願いします。



母校の伝統を語る穂苅会長代行(左)と多湖生徒会長

記念事業の組織と実行委員

百二十周年記念事業の委員の顔ぶれは次のとおりです。(3月末現在、敬称略)

記念事業本部 花岡堅而、

穂刈甲子男、上島忠志、百

瀬孝夫、矢ヶ崎啓一郎、鈴

木脩、相沢英伸及び校長、

教頭、事務長、PTA会長、

同副会長

募金委員会 花岡堅而、

穂刈甲子男、上島忠志、百

瀬孝夫、矢ヶ崎啓一郎、鈴

木脩、相沢英伸及び理事、

監事、実行委員全員

記念式典委員会 穂刈甲

子男、相沢英伸、井上保、

矢ヶ崎良威、前沢哲司、赤

羽総一郎、宮沢正己、矢ヶ

崎昭三郎、上原功、飯島信

彦、西原賢次及び教頭、事

務長

母校後援委員会 百瀬孝

夫、飯沼幸雄、田中弘美、

中村秀夫、中沢忠一、丸山

嵩一、下川文治、草間忠幸、

川上薫、大久保典昭及び教

頭、事務長

同窓会館・中等教育資料

館建設基金委員会 花岡堅

而、穂刈甲子男、上島忠志、

百瀬孝夫、矢ヶ崎啓一郎、

鈴木脩、相沢英伸及び教頭、

事務長、中島博昭、峯村由

章、藤森喜雄

中等教育資料目録作成・

展示委員会 上島忠志、桐

原義司、岩垂俊雄、佐藤玲

子、中島博昭、峯村由章、

藤森喜雄、青柳直良、教頭

文化事業委員会(美術展、

音楽会、講演会) 矢ヶ崎

啓一郎、北村明也、飯沼博

則、青柳哲、馬瀬紀男、古

川寿一、井上保、矢ヶ崎良

威、田内正一、西川慎入、

有賀正典

出版事業委員会 上島忠

志、北村明也、相沢英伸、

中野永吉及び教頭

(会員名簿) 上島忠志、

相沢英伸、北村明也及び教

頭

(深志人物誌II) 上條

宏之、仁科惇、北村明也、

上島忠志、佐藤玲子、細川

修及び教頭

「記念事業報告書」委員

会 島正知、鈴木史朗、中

島博昭及び教頭、同窓会係

実行委員 太田美明(松

中46回) 平林安雄(47) 高野

健介(48) 赤羽千鶴(49) 鈴木

昌造(50) 水橋常介、児島憲

次郎、杉田喜一(51) 榊原栄

一郎(52) 三谷達雄、三原順

三郎(53) 滝沢康雄、中村茂雄(54)

宮本正彦、中川兼雄(55)

本山進(56) 上村貞蔵、黒田

良平(57) 務台貞輔、青柳哲

58 村山圭、森川光男(59)

森英司、大熊淳(60) 中村秀

夫、浅田勝夫(61) 住田正(62)

下川文治、召田十年(63)

大久保守也、小穴岳夫、横

山利雄(64) 花岡和雄(65) 太

田坦(66) 矢ヶ崎昭三郎、立

沢節朗、折井湛(67) 小平靖

彦、降旗昭三(68) 久根下一

幸(深志1回) 石川一登、

遠藤博、木挽平八(2) 須田

益人、谷川清(3) 藤松晃、

島正知、倉田貞男(4) 中沢

忠一、前沢哲司(5) 田中弘

美、花岡頼充(6) 中村代次

郎(7) 遠山精一、齊藤吉(8)

勝野勇、山崎高幸、奥武

男(9) 島宗弘(10) 武田充生、

宮坂高尚(11) 上原功、川上

薫(12) 鈴木史朗、薄井宏彦、

山根伸右(13) 高山紀夫、奥

原永寿(14) 青山織人、内山

口裕正(15) 水城由貴(16) 鎌

崎幸太郎、寺島千穂(16)

丸山敏文(夜中3回)、高野

忠治(4回)、松本正久(11

回)、古川恵以重(12回)、

横内義里(14回)、正田喜由

(15回)、座間茂夫(同)、尾

崎幸太郎、寺島千穂(16)

丸山敏文(夜中3回)、高野

忠治(4回)、松本正久(11

回)、古川恵以重(12回)、

横内義里(14回)、正田喜由

(15回)、座間茂夫(同)、尾

崎和年(16回)、宮澤成一

(同)、山田四郎吉(17回)、

草間忠幸(同)、野々山泰

(同)、齊藤秀雄(同)、竹内

善雄(18回)、西村晴義(同)、

横山仁(19回)、宮沢正己

(同)、北原新(20回)、横山

富雄(同)、黒田昭治(21回)、

窪田喜保(同)、宮澤貞年

(22回)、百瀬実(同)、塩

原隆登(23回)

飯浜義照(24回)、南山惣作

(25回)、石田成男(同)、松

澤昭雄(26回)、矢野良治

(同)

馬瀬紀男(定時制1回)、小

林千之(2回)、岩月利一

(同)、横山実(同)、丸山哲

璋(3回)、五島良治(同)、

伊藤勝康(同)、麻和郁正

(9回)、山田登志雄(5回)、

中野永吉(同)、角野早苗

(8回)、横前弘幸(7回)、

竹内博視(8回)、山口幸四

郎(9回)、中島弘寿(10回)、

柴英雄(11回)、藤沢満雄

(同)、小林正幸(12回)、関

万寿(13回)

竹田彰男(14回)、松沢今朝

男(同)、清水敏明(同)、鈴

木昭男(15回)、池田英俊

(16回)、鈴木信(17回)、

中野和彦(18回)、川上修一

(19回)、甕進(20回)、丸谷

義明(21回)、佐藤潔(22回)、

児玉宗光(同)、浜登(23回)、

藤沢芳永(24回)、牧羽末経

(25回)

百二十周年へ「期待と注文」

志の高い自治活動こそ大切



小松 健男(松中68回)

百二十周年へ寄せる期待の高まり。二十一世紀を踏まえて、明日の深志に望むものを寄稿していただきます。



桐原 義司(松中45回)



熊井 啓(松中69回)

体験を次の世代に伝えたい



熊井 啓(松中69回)

校歌を心の糧とし続けたい



はまみつを(深志4回)

百二十周年記念事業の委員の顔ぶれは次のとおりです。(3月末現在、敬称略)

郷関を出て既に四十年余り経った。年に一、二回帰郷する機会があるが、深志高校の現在がどのような姿であるかは知らない。

私たち松中六十九回卒業生は百二十周年の歴史のなかで、もっともドラマチックな体験をした世代ではなからうか。

「遙か」だとしたら……。校歌はまた、人生を永遠に紡ぐドラマでもあると思っただ。深志が、何百年歴史を重ねようと、私は目に見えて望むものは何もない。

「遙か」だとしたら……。校歌はまた、人生を永遠に紡ぐドラマでもあると思っただ。深志が、何百年歴史を重ねようと、私は目に見えて望むものは何もない。

母校の近況

平成五年、中山茂十四代校長の後を受けて、中村磐根第十五代校長(深志6回・東大・西洋史専攻)着任。生徒・職員への第一声は「松中・深志の伝統の神髓の継承を」。

平成六年三月に山本伍朗教頭(深志4回)が退職、四月猪熊啓司氏が後任に。山本氏は同窓会活動に大変功績を残されました。

母校は「学術の香に満ちた場」であることを願って、同窓生諸兄姉に講演・演奏を依頼してありますが平成五年度は、全生徒に、京都大学教育学部長岡田渥美教授(深志5回)による「憧れ—Striving for the ever-breater—」と題した講演。

七月は一年六組父母と生徒に、立正大学経済学部五味久壽教授(深志15回)「世界経済の流れ—アジアの工

業化・輸出経済化と現代産業」。十一月、二年生に、三重大学大学院工学研究科宮島成壽教授(深志5回)「大学から見た高校生のあり方」。一年六組父母と生徒に、早稲田大学社会科学部輪湖博教授(深志21回)「自然科学における偶然と必然」。また合唱コンクールの翌日、一学期終業式に夏休みを呼ぶ詩として、白井文代氏(深志33回、東京芸大、ベルリン芸大卒)のピアノ演奏を聴きました。

運動部はすべて中予選で勝ち抜き県大会に出場。県大会での成績は、硬式庭球部男子3位、男子排球部ベスト4、体操部団体4位、山岳部団体8位、羽球部男子Wベスト8、サッカー部ベスト8、野球部、柔道部、卓球部、女子排球部はベスト16、水泳部は原が100

五年年度の定時総会

平成五年年度の定時総会は九月十八日松本東急インで開催されました。議事の重点項目は役員改選と創立百二十周年記念事業について。役員改選については、平成八年の記念事業を達成するまでは現行の役員体制で行くことで承認されました。記念事業については、企画委員会から次のような事業の骨子が提案されました。

①母校援助、②「中等教育資料目録」作成、③「中等教育資料館」建設、④地域への謝恩・文化行事として美術展、音楽会、⑤出版事業として会員名簿と深志人物誌IIの刊行、⑥記念式典。

このうち「中等教育資料館」については、構想・場所等今後の検討課題とする。深志人物誌IIについては、役員会の承認を得て、編集委員会が設置され、取り上げる人物とその執筆者がほぼ決定している、という企画委員会案が満場一致で承認されました。

その後、東京大学名誉教授、松商学園短期大学学長赤羽賢司氏(松中65回)の特別講演が行われました。赤羽氏は電波天文学を専攻、昭和四十四年東大教授、五十七年野辺山宇宙電波観測所長。演題は「宇宙の姿を求めて」。

「自治を命の」流れをたどる

平成八年に百二十周年を迎える母校の歴史を貫く大きな流れは「自治」。その源流は、草創期の相談会や矯風会、自治寄宿舎などにあり、その後の伝統的な校風を育てる基礎となりました。寄宿舎には良有会、披雲会、尚志社、真正舎などがありました。なかでも尚志社は、松中自治の象徴的な自治寄宿舎として、多くのすぐれた人材を輩出しました。

尚志社は明治三十年(一八九七)六月、松本中学の大先輩で、天守閣で逆立ちをしたという松原温三が創立した信濃舎がルーツです。信山賢、信山尚志社などを経て、明治三十五年四月に「尚志社」となりました。

松本の寄宿舎は明治三十年十二月、温昌ヶ丘(今の松本市巖ヶ崎三丁目)に用地を確保。建物は同三十二年十月に新築落成しました。

尚志社での生活は、午前五時(または五時半)の起床に始まりました。内外の掃除を済ませたあと、六時から三十分間の「輪講」。全員が、正座して尚志社主旨を唱和したあと、上級生が輪番で論語などの講義を行いました。当番に当たった上級生の勉強ぶりは無論のこと、講義を聞く下級生のまなざしもまた真剣そのものでした。

朝食は七時から。夜は午後六時から夕食、七時から九時までが自習時間。これ

地学会、博物会、地歴会、中国語研究会、アカシア会、赤とんぼの会等が地道な活動で成果をあげています。

とんぼ祭では、演劇部が、野田秀樹作「瓶詰のナポレオン」を公演、音楽部は合唱班が「風紋」と「グロリア」、室内楽班がヴィヴァルディの「四季」等を、吹奏楽部はプロコフィエフ「ロミオとジュリエット」等を演奏、好評でした。

自治の新しい胎動は、次のような活動に現れています。「ニール」は、南北問題・環境問題を討議する会です。第一回は、信大の船津助教、ユネスコ主催識字ワークキャンプに参加した三年生伊藤を中心に「バングラデシュを知ろう」という会をもちました。図書

館の「みんなの広場」では、「インドについて」「校歌・松原の思い出について」「幕末から維新へ」「地球環境について」先生と生徒の討論する場を持ちました。ヘッセの「車輪の下」をテキストにした読書会も「源氏物語を読む会」も続いています。哲学研究会は毎週一回「英文で哲学書を読む会」を続けています。テキストは「ハートランド・ラッセルの自叙伝」、E・Hカーの「歴史とは何か」、カッシーラーの「人間について」等です。

「続・契りも深き」を刊行

ハッパ会五十周年

深志五回卒の五婿会は、平成五年十月九・十の両日

は平成五年に卒業五十年を記念して「続・契りも深き」を刊行しました。七一六頁の大冊。昭和史の生き証言として評価されています。

また十一月六日、母校で物故者慰霊祭を執り行いました。席上、三十万円を中村校長にお渡ししました。後日、オーパーヘッドプロジェクトを購入了との報告がありました。

校門前で記念撮影ののち懇親会に移り、八十名出席と大いに盛り上がりました。(丸山嵩一)

講堂に暗幕プレゼント

五婿会四十周年

深志十五回生は、卒業三十周年の記念事業として、平成五年十月九日松本市音楽文化ホールで「丸山亮作品コンサート」を開催しました。丸山氏は同期生で特許庁に勤めながら作曲活動をしているプロの作曲家です。サウンドスケープ協会の理事でもあります。

当日は六百名の市民が集まり盛会でした。(竹川進一)

「優れた人材を輩出 切磋琢磨の尚志社」

新寮生歓迎の手荒なコンパや闘汗会、深夜の試胆会、厳冬の雪合戦もありました。が、これらは決して上級生による高圧的なものではありませんでした。夏休みと

「おつわり」

未刊の仮称「深志城下の青春」という写真集は、深志同窓会の事業ではありませんのでご承知ください。

「五婿会・前途遙かに・卒業四十周年の集い」をひらきました。百五十名が参加。初日は母校講堂に恩師多数のご臨席を仰いで記念式典。記念品として講堂の暗幕一式を贈呈しました。記念講演は同期生柳澤孝彦氏の「環境の遺伝子」。窪田空穂記念館の設計者でもある柳沢氏はスライドを使って作品解説を行いました。懇親会は市内マウントホテルで盛大にひらかれました。

十月十日はゴルフ大会(四十余名)と安曇野巡り(バス二台に分乗)を行いました。(中沢忠一)



昭和44年4月刊『尚志社記念誌』より



昭和14年3月 尚志社松本学寮の送別会

蜻蛉抄

深志百周年、百十周年の熱気がつい昨日のことのように思われますが、平成八年を迎える百二十周年への期待が目を追って高まってきました。

今号は記念事業の構想と実行委員をご紹介し、併せて各世代の同窓生から百二十周年へ寄せる「期待と注文」を寄稿いただきました。記念事業もさることながら現在の深志の学園生活が志の高い自治活動を豊かに繰り広げてほしいという共通の願いに胸をうたれます。

なお同窓会報今号の編集委員は次の各氏です。

(50音順、敬称略)

伊藤芳郎(深志21回)上島忠志(松中67回)北村明也(深志5回)佐々木節男(同12回)鈴木史朗(同13回)花岡頼充(同6回)平林伊三郎(同8回)山本伍朗(同4回)